

いわき市にある大学で セミナーを開催しました

プログラム

開催日：平成 30 年 5 月

参加者は 152 名(1 年生 81 名、2 年生 40 名、教職員 27 名、一般市民 4 名)でした。

9:30~9:35	開会
9:35~10:10	講演 1『福島第一原発事故の概要』木野 正登
9:55~10:40	講演 2『福島の震災から、災害支援について考える』吉田 浩二
10:40~10:50	休憩
10:50~12:10	シンポジウム『福島第一原発事故を振り返って』 木野 正登「国の立場から」 吉田 浩二「何故、現場で活動ができたのか？～看護師にとって必要な放射線の知識～」 井出 寿一「避難の受け入れから避難、そして看護師の支援について」 鈴木 洋四雄「広野町での住民対応を経験して」
12:10	閉会



内 容

講演 1『福島第一原発の概要』では、福島第一原発の事故発生の説明や、事故当時の国や自治体の対応について説明し、現在は福島第一原発構内で敷地の 95%は、一般作業服での作業が可能状況にある等の説明を行った。

講演 2『福島の震災から、災害支援について考える』では、福島第一原発事故後に福島県内に入り、看護師としての活動を通じて、放射線災害における看護師の支援について説明を行った。

シンポジウムでは、『福島第一原発事故を振り返って』と題し、パネリストがそれぞれの立場から福島第一原発事故当時や事故後の対応等について話した後、会場の参加者と意見交換を行った。

頂いた質問から

Q. 風評被害にはどのように対応したら良いか。

- A. ・福島県産の食べ物は検査が行われているということを丁寧に説明するとともに、消費者自ら放射線の正しい知識を身に付けることが重要であると思われる。
- ・当時の経験等現地で活動した話を全国各地ですること、考えてもらったり、現状等を知ってもらうきっかけになれば良いと思われる。
- ・放射線について正しく理解することが風評被害対策になると思われる。農業を再開している地域もあり、食の安全性を確認しながら地産地消も進みはじめていると思われる。
- ・今まで実施した食品検査結果のデータ等により、食品の安全性について正しく理解することであるとと思われる。

アンケートから

「今回は非常に貴重な経験であった。違っていた自分の知識も多くあり、実際に体験し、知識をつみ重ねた方の講演は確信があった。先生方の体験の反省から、改めて気づくことも多く、これを今後の学びへ繋げていきたい。」といった意見や、「本講義で学んだことを今後に活かしていきたいと思う。また、震災が再び起きたときに備えて、普段から知識を身に付けるようにしたい。」といったご意見が挙げられました。